

長寿をお祝い 敬老会・敬老のつどい

九月十六日、今年度中に八十歳になられるかた十七人を料亭「吹原」に招き、敬老会を開催しました。

当日は、広江町長のあいさつのもと、来賓のかたがたが、一人ひとりに「いつまでもお元気

で長生きしてください」とお祝いの言葉をかけられました。出席された皆さんは、鮎料理に舌鼓を打ちながら終始、和やかに歓談され、楽しいひとときを過ごされました。

また、九月二十日には、七十歳以上のかたを中央公民館に招いて、敬老のつどいを開催しました。広江町長のあいさつのもと、加藤県議会議員をはじめとする来賓の祝辞に続いて、余興ではミスター才児さんの手品往還亭イロ波さん、紫桔梗さんの落語で、会場は大いに盛り上がりました。その後、保健師による指導で皆さんと一緒に健康体操を行いました。



▶見事な手品を披露するミスター才児さん



健康体操に興じる皆さん

ゲーム感覚で運転技術のチェック

運転適正診断

九月十日に運転技術のチェックを行う運転適正診断が福祉会館駐車場で行われ、笠松町高齢者交通安全大学の学生十二人が参加しゲーム感覚で診断を受けました。

結果でしたが、緊張感を維持するときの反応にむらがあるや多いので注意をと言われました。自分では気が付かないことを指摘されたので、自分を見つめ直すいい機会になりました。これからはスピードは控えめにし、肩からの力を抜いて余裕のある運転となるよう心掛けます」と話されました。

診断は県警本部応痛安全教育班の説明を受け、CRT運転適正検査機を使い、ランプが点灯してからブレーキペダルを踏む動作やハンドル操作の測定など約二十分間の検査が行われ、受講された皆さんは楽しみながらも真剣な表情で診断を受けました。

診断後には「反応動作の速さ」、「動作の確かさ」、「注意の配分と集中」、「状況処理の巧みさ」の項目について評価され、その診断結果から運転行動についての傾向を個別指導されました。

参加した伊藤弘さん（大池町）は、「画面を見ながらの瞬間的な判断は難しく、操作がなかなか思うように出来なかった。テストということで大変緊張し、肩が凝りました。総合判定では全体的に問題ないという



◀真剣な表情で診断に臨む学生